



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯科医学教育推進室長に就任して

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

3月11日付けで歯科医学教育推進室長を拝命いたしました。国家試験合格率の低下と志願者数の激減という歯学部が置かれた厳しい状況の中で、このような大役を仰せつかり、本当に身が引き締まる思いです。今この時期に求められているのは、昭和大学歯学部の社会的使命を考えなおす事ではないかと思えます。本学がどのような学生を育てて、卒業生にどのような社会貢献を期待するのかを考えて、今後の方向付けを定める良い機会ではないかと考えます。今年度歯学部夏のワークショップにおいて、教授を中心に徹底的な討議していただき、学内の同意を形成することが最も重要であると考えます。



私は歯学部3年生で、富士吉田の寮生活も経験しましたが、昭和大学オリジナル教育を考える際に、医学・薬学・保健医療学部との連携は極めて重要であると考えます。超高齢社会の中で、様々な基礎疾患を有する患者に「安心・安全な」歯科医療を行うためには、歯科医師はまず医療人である必要があります。チーム医療ができる医療人を養成するために1年生(600名)に対して、富士吉田キャンパスで学部横断PBLが、昨年度より始まりました。本年度は3年生に対して、旗の台、横浜キャンパスで学部横断のPBLを行う予定です。また学部横断の早期体験実習、学外・病院実習なども計画中です。

また国家試験合格率を上げることは急務です。教授会の合意の下に卒業時の学生の到達目標(知識・技能・態度)を明確にします。それらを1年1年確実に積み上げる事とその達成度を評価することにより、授業内容や指導方法の改善を計ることができ、結果として合格率の向上が期待できます。これに関しても歯学部ワークショップでしっかり討議をしていただきたいと思います。

近年教育負担の増加で、現在教授をはじめとする教員は全く余裕がない状態です。歯科医学教育推進室ではICTの活用により教育効率の改善を計りたいと考えております。教育関連の問題は山積しておりますが、微力ながらも他学部と連携をとりながら、昭和大学歯学部の発展のために努力しますのでよろしくご指導ご支援お願いいたします。

平成20年度父兄会総会開催される

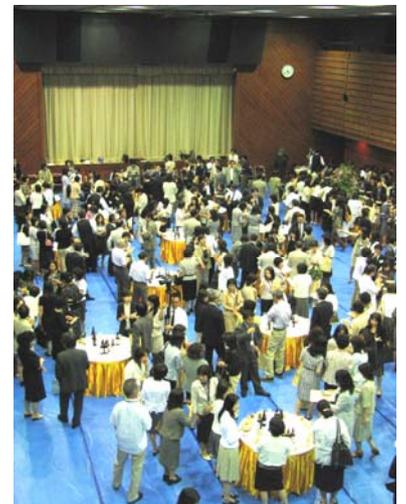
歯学部長 宮崎 隆

平成20年度父兄会総会が、去る6月21日午後2時から本学上條講堂に於いて開催されました。非常に蒸し暑い日でしたが何とか雨は



降らずに持ちこたえ、会場は超満員の出席者でした。四ノ宮父兄会長の議事進行により、平成19年度の決算、および平成20年度の事業計画と予算案が承認されました。四ノ宮会長の方針で、特定の学部に限らず全学的な視点で予算編成が行われました。家計急変者を支援する父兄会互助会の活動も軌道にのっています。同日は総会に先立ち、午後12時半から歯学部6年生の父母説明会、引き続き2時から歯学部6年生学生説明会が開催され、立川学生部長から大学院制度および国家試験対策等について、佐藤教育委員長から卒業判定について、古屋臨床研修医マッチング支援委員長から卒業研修制度について、そして長谷川総合診療歯科科長から本学歯科病院の研修プログラムについて説明がありました。

総会終了後、各学部に分かれ、歯学部会が昨年同様4号館5階500号室で大勢の出席を得て開催されました。宮崎学部長から歯学部の現状とさらなる評価向上を目指して挨拶があり、佐藤教育委員長と立川学生部長から学務全般に関する説明がありました。最後は7号館に場所を移し、4時15分から4学部合同の懇親会が開催されました。こちらもご父母の参加が多く、超満員でしたが、小口理事長、細山田学長、各学部長を交えて楽しい歓談をし、午後5時半過ぎに散会しました。



2008年度D5リスクマネジメント

PBLに参加して

PBL 委員 藤原 広

平成20年5月16日、23日にD5臨床前実習の中で「リスクマネジメントPBL」を実施いたしました。このPBLは、臨床実習を行う前に歯科治療時における偶発症を学習させるとともに、患者とどのようにコミュニケーションをとり、どのように診療するか考えさせる事を目的としています。コーディネータである歯科麻酔科の吉村節教授と基礎系2名、臨床系4名の教員が学生のファシリテータとして参加しました。また今回は省力型PBLとしてファシリテータの人数を減らし各教室の負担を軽減することを試みましたが、学生がすでにPBLに慣れていることもあり、懸念していたよりスムーズに進行しました。ただいくつかの問題点も浮き上がり次回への課題となりました。



昨年は本学歯学部の子校であるオーストラリア・アデレード大学歯学部で使用されているシナリオビデオを使用させていただきました。しかし出演者が外国人で英語ということもあり、患者の表情や言葉の微妙なニュアンスまで伝わりにくい部分がありました。そこで今年は昭和大学オリジナルのシナリオビデオを総合診療歯科、長谷川准教授が中心となり作成しました。このビデオは本物の俳優が出演する本格的な再現ビデオで臨場感あふれる出来となり、臨床では意図して実際の症例を経験することが難しい治療時の偶発症を疑似体験で学習することができたと思います。最後のリソース講義では偶発症への模範的な対応をシナリオビデオの続きとして視聴して学習させました。偶発症は起きないように注意することが肝要ですが、不運にも遭遇した際に「FREEZE」しないよう、今回のPBLで学習したことを今後の臨床実習でももちろん、卒後も生かしてもらえればと思います。

平成20年度 昭和大学白菊の集い

口腔解剖教室 江川 薫

平成20年度昭和大学白菊の集いが6月14日(土)7号館(五十周年記念館)で開催されました。当日は梅雨の期間にもかかわらず、すばらしい晴天に恵まれ、医学部・歯学部の人体解剖学実習のために死後献体に賛同していただいた白菊会会員が多数出席されました。本年度は医学部会員129名、歯学部会員91名および同伴者を含め271名の方々にご参加いただき、昨年を上回る参加者数でした。受付が始まる12時前から多数

の方々がお見えになり、用意された昼食をいただいた後、

12時30分より医学部第二解剖学教室の大塚成人教授の開会の辞により白菊の集いが始まり

ました。引き続き、この1年間に医学部・歯学部へ献体いただいた65名の物故会員の方々のご冥福をお祈りして出席者全員で黙祷を捧げました。細山田明義学長の挨拶に続いて、安原一医学部長、宮崎隆歯学部長が挨拶され、白菊会会員への感謝の言葉が述べられました。白菊の集いでは会員のためになる講演を毎回行っていますが、本年度は昭和大学医学部精神医学教室の加藤進昌教授に「うつ病の時代—高齢者のうつ病について—」と題した講演をしていただきました。ユーモアも含めての講演に皆熱心に聞きいっており、講演後には多くの方から質問がありました。最後に歯学部口腔解剖学教室の中村雅典教授から閉会の辞があり、来年も元気で再会することを約束して盛会のうちに午後2時30分に白菊の集いは終了しました。



昭和歯学会雑誌のリニューアル

Dental Medicine Research 編集長 井上 富雄

昭和歯学会雑誌は、昭和56年9月に第1巻1号が発行され、第7巻までは年2回、その後投稿数の増加に伴い年4回の発行を行ってきました。

この度、本年3月発行の第28巻1号から、名称を「Dental Medicine Research(DMR)」としてリニューアルしました。表紙も写真のように現代風となり、すっきりとした中にも格調を感じさせるデザインで、本学の校風にマッチするものと考えております。版型もB5版から最近では主流のA4版へと大きくなり、活字も大きく読みやすくなりました。版型の拡大により掲載量が増えたため、これまでの年4回の発行から年3回の発行に変更いたしました。掲載する論文や記事につきましては、英文と和文の両方を受け付けておりますが、昭和歯学会総会および例会の抄録につきましては英文に変更しました。今後はさらに内容のレベルアップを計るとともに、多くの方に読んでいただけるような興味深い紙面に充実させていきたいと思っております。新生「Dental Medicine Research」に多数の投稿をお待ちしております。



D6選択実習を体験して(大連医科大学, 中国)

歯学部6年 関 健太

5月26日から6月6日の期間、中国遼寧省にある大連医科大学で実習を行いました。海外実習は初めてで、実習前には四川省の地震や食品問題など様々な問題が起きたためとても不安でした。しかし、そんな不安を取り除いてくれたのは、明るくて優しい、そして陽気な大連医科大学の先生や学生、スタッフの方たちです。みんな気さくに話しかけてくれて、言葉が通じなくても漢字を書いてコミュニケーションをとってくれました。しかも、いつも笑顔で！向こうでは昨年できたばかりのキャンパス見学や付属病院での見学などを行いました。新しいキャンパスはとても広く、綺麗でした。驚いたことにプライベートビーチまで持っており、図書館はガラス張り、2万5千人の生徒や学校関係者がキャンパス内にいます。全てが桁違いで一見の価値はあると思います。大連医科大学は歯科が入っている病院を3つ持っており、付属病院が一番小さい病院ですが笑顔と活気に満ち溢れ、見学をしている僕にまで元気を与えてくれるほどでした。最後になりますが、学外実習に行く機会をくれました先生方、大連医科大学の胡書海先生そして一緒に実習をした秀島 学君に感謝の意を捧げたいと思います。



作・歯科における中医学の応用などについて教えていただきました。どの先生も疑問に思ったことを聞けば快く答えてくださる先生ばかりで大変勉強になりました。大学院生の中には、再生医療の研究をされている方もいました。また、昭和大学に関係のある先生も数名いらっしゃりとても心強かったです。

1日の流れとしては、主に見学生とし、2週間臨床を見学します。5時から症例検討会、その後8時前までTMDや粘膜疾患、顎変形症、補綴、腫瘍などの勉強会がありました。研修医の先生もとても熱心で、それ以降も実習を行っていました。



5年生の実習が終わった段階で2週間も実習をさせていただけるとは、とても有益です。他の大学病院を長く見ることで出身大学以外の病院の異なる点を感じることができます。慶應大学の建学の精神の影響か、みな積極的に私自身良い影響を受けました。最後に選択実習という貴重な機会を与えてくださった先生方と慶應義塾大学病院の中川教授と先生方に深く感謝致します。有難うございました。

受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・原 聰(高齢者歯科学 助教, 写真右)
- ・石原 広(高齢者歯科学 員外助教, 写真左)

平成20年6月8日に名古屋で開催されました第117回日本補綴歯科学会において、原先生は特定推進優秀論文賞、石原先生は奨励論文賞を受賞されました。

論文題名(原):「義歯支持軟組織のバイオメカニクス特性評価—粘膜硬さの客観的評価法の確立—」

論文題名(石原):「客観的評価に基づいた顎堤高さ診査用スケールの有用性に関する研究」



D6選択実習を体験して(慶應義塾大学病院 歯科・口腔外科)

歯学部6年 藤田 陽平

私は、慶應義塾大学病院に入ったことがなく、当初の印象では、厳格なイメージと壁を感じるのではないかと内心不安でした。しかし、歯科・口腔外科の先生方は、みな親切で特に中川教授は、忙しい中も大学の説明や歯周疾患などについて教えてくださる素晴らしい先生でした。慶應義塾大学病院は、歴史と伝統を感じる病院でした。医局員はやる気があり、他科との連携も盛んで、また医局の雰囲気も良く、有意義な実習をさせていただきました。医科の病院の一科である特徴から他科から紹介されてくるため有病者が多いなど特殊性もあります。施設の特徴は、外来は、口腔外科と歯科に分かれていて、私は主に口腔外科を中心に見学させていただきました。入院病棟は、口腔癌や顎変形症の患者さんが入院されていました。

特殊外来が多く、月曜日は、歯周病、火・木曜日は顎関節症、水曜日は、口腔粘膜疾患、金曜日は、補綴外来、他にも唇顎口蓋裂や矯正も他大学の先生が来られて治療をしていました。口蓋裂やホツツ床の製

診療統計(平成20年5月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,883	703.5	690.6	705.5
入院患者	468	15.1	11.7	9.8

CBTワークショップ開催

CBT委員長 井上 美津子

平成20年度のCBTワークショップが5月24日(土)に開催されました。機構より2名のタスクフォース(東京医科歯科大学の五十嵐順正教授と大槻昌幸准教授)を派遣していただき、歯学部各科から24名の受講者と宮崎学部長、CBT委員など計30名が参加しました。タスクフォースの先生方による講義の後、受講者が4班に分かれ、各自が作成してきた問題をブラッシュアップしました。午前中に順次解答連問、午後にも多選択肢連問のグループ演習を行い、それぞれの結果を全体会議で発表、討議するとともにタスクフォースからの意見やアドバイスをいただきました。活発な質疑応答が行われ、熱気のたどようなかで修了証が授与され閉会となりました。受講者の熱心な態度はタスクフォースから高く評価されていました。



教室紹介 歯科放射線学教室

歯科放射線学教室 岡野 友宏

放射線科の役割は適切な画像とその診断を提供することです。一見、歯科の画像は簡単に作成され診断も容易と感ずるかもしれませんが、



しかし例えばパノラマ写真をみれば他院と比較にならないほど高品位であることに気づくでしょう。デジタル方式の上に画像処理に種々な工夫をしています。これがプロの仕事です。読影については医科と同様、専属の放射線科医による読影であれば、加算がとれるようになりました。ただし、現在の病院の診療形態ではすべての画像を読影するのは困難です。いま昭和大学の附属病院では画像の電子化と一元管理が進行しつつあります。装置のシェアという側面もありますが、専門医の能力を有効に利用するという点で意義があります。歯科診療においても先進的な画像検査が必要なことがあり、その読影を含めて協働できる環境が確保できれば患者の利益は大きくなります。

本科の課題はこうした環境を確保することを病院側に求めるとともに診断能力の向上を常に図ること、昭和大学全体の診療にも貢献することと考えています。一方、臨床教育は卒前卒後を問わず、日常の診療の中で行われるべきと考えており、学生や研修医

たちには診療科の一員と実感してもらいたい、そういう学習環境を準備しています。

本教室は10年あまり前までは放射線の生物影響をみる研究を進めてきました。ことに低線量照射が骨芽細胞に及ぼす影響をみる実験ではいい成果を上げました。一方で当時から診療と直結する臨床研究を行ってきました。画像の質の定量評価や画像検査に伴う被曝線量の測定などは一見、診療には直結しないように思われますが、検査を総合評価するにあたり重要な判断材料になります。科研費取得もこの20年で1億円を越えました。それに相応しい成果を上げることが研究室としての使命です。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 7月 4日(金) : 第13回夏季スポーツ大会壮行会
- 7月25日(金) : 昭和大学医歯薬合同進学相談会
- 7月14-16日 : 第14回昭和大学医学教育者のためのワークショップ
- 7月29-31日 : 第13回昭和大学歯学教育者のためのワークショップ
- 8月 2日(土) : 歯学部オープンキャンパス
- 8月22日(金) : 富士吉田キャンパス見学会
- 8月23日(土) : 歯学部オープンキャンパス

専門医取得

広報委員 堀田 康弘

日本小児歯科学会専門医 取得

浅里 仁 助教, 船津敬弘 助教, 池田訓子 助教

編集後記

歯科理工学教室 堀田 康弘

関東では梅雨入りが平年より1週間近く早かったものの、その後、逆に傘を使う機会が減ってしまいました。この時期の雨量は、夏に必要な農業用水等を蓄える重要な役割を担っていますが、先頃東北地方を襲った地震や中国四川省の地震などでは、雨による土砂災害も懸念されました。こうした自然災害をもたらす地球温暖化などの環境問題について、我々歯科の分野でもしっかりと取り組んでいく必要があると感じます。末筆ではありますが、執筆していただいた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。